第５回　地域力創造推進に関する研究会
議事概要

〇日時
　令和５年６月９日（金）15:30～17:30
〇会場
　中央合同庁舎第２号館 低層棟 101 会議室
〇出席者
・構成員
　小田切座長、飯盛構成員、辻構成員
　（オンライン参加）石井構成員、桑原構成員、指出構成員、佐藤構成員、
　　砂原構成員、沼尾構成員、三神構成員
（事務局）
　大村総括官、足達審議官、西中課長、小谷課長、松本室長、原田官房付、畑山官房付、椋田官房付

【議事次第】
（１）開会
（２）事務局説明
　　意見交換
（３）閉会

【議事概要】

〇今回の提言素案は、通常の文章形式の提言ではなく、アイデア集のようなものになっている。かなりユニークな形となるが、新しいタイプの提言として捉えたいと思う。（小田切座長）

〇提言素案の各論の順番が、地方の現場の感覚と合わないと感じるところがあるので、並び替えを検討してはどうか。具体的には、現場の最大の課題として「コミュニティの維持」があり、その原因として「担い手の確保の問題」がある。そして、その解決策として「人材力の強化」や「デジタルの活用」があり、コミュニティの役割の代替やコミュニティ自体に活力を与えるという観点で「ローカルスタートアップのような経済的な活動」がある。各論もこの順番に組み直してはどうか。（佐藤委員）

〇以前の研究会で、「民生児童委員の業務のデジタル技術による省力化」について述べたが、提言素案には、デジタルリテラシー向上のための研修という文脈

でまとめられているため、デジタル化を通じた負担の軽減という文脈で整理し直していただきたい。（佐藤委員）

〇「コミュニティの維持」という用語の定義がよく分からない。インフラの維持を指すのか、人間関係や地域文化、イベントなどの維持を指すのかがはっきりしない。（三神委員）

〇コミュニティの考え方として、スポーツスタジアムが地域のハブとなっている今治市の例のように、あるひとつのものに複合的な機能を持たせて地域を維持していくという考え方もあるのではないか。（三神委員）

〇人口の過密性や国土面積を考慮した行政施策等の再定義を行った方が良いのではないか。（三神委員）

〇自治体の統合等意思決定の要素をブレークダウンし、数値化して把握するようにしてはどうか。基準がはっきりとすれば、先手をとった対処が可能になる。（三神委員）

〇地域コミュニティの総合性を踏まえると、トータルに地域づくりを考えるための仕組みの検討も必要なのではないかと感じる。実際に全国の様々な集落やコミュニティを見ると、それぞれの地域課題に対して、それぞれの省庁が縦割りで施策や事業を実施している現状があるため、各省庁の各施策を取りまとめ、一気通貫で地方に届ける役割を総務省が担うことも考えられないか。（沼尾委員）

〇それぞれの地域には、スキルや知識を持った人物が多くいるが、国の資格を有していないために、行政の施策や事業において活用しきれていない現状がある。これからの地域力創造のために、こういった地域にあるスキルや知識を活かすための良い意味での規制の見直しが必要ではないかと考えており、提言の中にも書き込んでいただければと思う。（沼尾委員）

〇地域創造力の向上に向けた、「地域データの収集と活用」を提言に明記していただければと思う。（沼尾委員）

〇それぞれの地域に住んでいる方が、その地域の魅力や価値を再認識し、肯定的に受け止めることができるような仕組みについても、提言の中に明記していただければと思う。（沼尾委員）

〇人口減少社会における外国籍人材の活用についても、提言に記載して良いのではないかと思う。（沼尾委員）

〇佐藤委員がおっしゃった各論項目の並び替えには賛成。（指出委員）

〇大きな課題は、各種の制度が世間に知られていない、また、知られているとしても部分的だということであるので、各種制度の認知度向上については強めに書いていただければと思う。特に、「関係人口」については、小学生たちに対する「ＳＤＧｓ」の概念の周知のように、積極的に認知度向上に取り組んではどうか。（指出委員）

〇「クリエイティブ」や「イノベーティブ」な要素があるからこそ果敢にアタックする若者は大勢いるので、提言の中にもそのようなワードを入れていただければ、地域力創造を推進する際の大きな力になると感じる。創造という言葉をより届くように、やわらかく置き換えてみるのも方法。（指出委員）

〇基礎自治体として、データの分析と活用のところはなかなか手が回らないので、ここへの支援をぜひお願いしたい。（桑原委員）

〇地方の現場は、現在、深刻な人手不足の状況にあるため、これからはすべてを維持しようとするのではなく、どういう施策が必要か、しっかりとデータを駆使しつつ見極めていきたいと思う。（桑原委員）

〇地域力創造施策は、北風と太陽でいえば太陽の施策でとてもありがたかったが、一方で現状はとても厳しい。そのような現場の切迫感や危機感が分かるような提言の書きぶりとしていただければと思う。（桑原委員）

〇提言素案は、全体的に、どうすれば現状維持できるのかという視点から書かれているように感じる。地方の現状はとても厳しいものであるため、将来の世代から見たときに、今後どのような社会を作っていくべきなのかという視点から、提言を作成していくべき。（石井委員）

〇「ＤＸ」という言葉が指す内容も、日々刻々と変化しており、そのようなデジタルの世界の変化の早さを踏まえた提言の内容にするべき。（石井委員）

〇地域おこし協力隊の取組のゴールはどこにあるのかということは考えてみるべき。適切な評価もないままダラダラと取組を続けることは、必ずしも好ましいことではない。（砂原委員）

〇地域における起業の支援では、ある程度の失敗の可能性を許容しながらも金融的な支援を続けることが重要。失敗のリスクがあっても、地域を活性化する事業も多くあると思うので、そこに対して適切にお金を流すことが重要ではないか。（砂原委員）

〇地域おこし協力隊とローカルスタートアップの関係性が提言素案の中からは読み取れないので、そこについても記述してみてはどうか。（砂原委員）

→ローカルスタートアップの活用主体として期待するプレーヤーのメインは地域おこし協力隊ＯＢＯＧの方だと考えており、地方で施策の説明をする際は、必ずセットで紹介するようにしている旨、事務局より回答

→金融サイドとの整理はどうなっているのか。金融機関も創業支援などを行っているが、公費を投じて同様のことを行う意義はどこにあるのか。（砂原委員）

→地域資源の活用と地域雇用の創出という観点から、自治体が推進したい事業をしっかり支援していくという点が、ローカルスタートアップの特徴だと考えている旨、事務局より回答

→支援対象でローカルスタートアップと金融機関のデマケを図ることは難しいので、リスクの取り方でデマケーションを図るべきではないか。通常の金融機関が扱うにはリスクは大きいが地域にとって意味がある、ということに対して公費を投入するという整理の仕方の方が良いと感じる。（砂原委員）

〇地域力の創造にあたっての最大の課題は担い手の確保や育成だと思う。現在、高校生や大学生などによる地域の社会課題の解決に向けた動きが活発になってきており、また、地域のスポーツチームや古くから地方にあるファミリービジネス・家族企業なども、積極的に地域づくりの活動を行うようになってきている。そのため、こういった若い力や、地域づくり団体ではないがそういったことを行う組織を、今後どのように巻き込んでいくかという視点も大切ではないかと感じる。（飯盛委員）

〇地域づくりの評価について、量的な基準だけではなく、質的な基準も含めて適切に効果を検証できるような手法を検討していくべきだと思う。（飯盛委員）

〇地域の課題解決には、テクノロジーによる解決（テクノロジーソリューション）と地域力による解決（コミュニティソリューション）の２つのアプローチがあり、それぞれが共進化していかなければならない。そのため、地域力創造グループとしては、コミュニティの進化や変化の適切な測定・観察を行うことが重

要だと感じる。（飯盛委員）

〇自治体ごと、施策ごとに取り組み状況にばらつきがあるのは実感としても持っている。そのため、その濃淡をどのように解決していくのかということについて、中期的に考えていく必要がある。（飯盛委員）

〇全国の自治体の職員にも重要な地域づくりの担い手としての期待を寄せたい。地域づくり系の部局で直接そのような業務に携わらずとも、余暇で地域づくりの活動をしている職員はたくさんおり、非常に重要な担い手だと感じている。（飯盛委員）

〇若い方々の関心が高まりつつあり、自治体の職員も地域に出て活動をし始めている現状を踏まえると、地域における担い手の確保は未だ課題ではあるが、今後は明るい兆しがあるのではないかとも感じる。（飯盛委員）

〇過疎・人口減少問題に対して、地域力創造グループが持っている施策は限られているが、これまでの厳しい情勢の中でも、その限られた施策の範囲で、隙間を埋めるようにうまく成果を上げてきていると感じるので、そのことを提言に含めていただきたい。（辻委員）

〇提言素案は書きぶりの抽象度が高すぎる。もう少し具体的に、各種施策を駆使して手堅く地域にアプローチしてきたということをアピールできるような書きぶりにするべきではないか。（辻委員）

〇地域力創造施策を積極的に活用する団体と活用しない団体で分かれてきており、活用しない団体に労力を使ってアプローチするよりは、積極的に活用する団体をさらに支援し、好循環を生み出すアプローチに力点を置いた方が良いのではないかと考える。（辻委員）

〇特にデジタルに関しては、規模の経済性と若さが非常に重要であるため、全国あまねく施策を浸透させることは難しいのではないか。（辻委員）

〇若い世代に地域力創造のことを広く知ってもらうのはとても重要なことであるが、高校の「公共」の教科書でも、地域力創造に関する記述はごく限られた分量しかないので、根本的にはそういったところから改善を図っていくべきではないか。（辻委員）

〇若い世代への教育という観点では、「地理」に注目している。現在、地理総合

という科目が約半世紀ぶりに必修化されており、「地域学」の性格を帯びたものとなっているが、地域に飛び出して課題を把握し、それに対する提言を行うといったところまではできていない。地域力創造グループとしてはこの流れに大いに注目し、場合によっては連携を図るなどしてはどうか。（小田切座長）

〇地域力創造グループは、制度官庁としての総務省が、より現場に寄り添った施策を実施するためにつくられた部局だと承知している。制度官庁という立場ではない形で、地域にアプローチしてきた地域力創造グループの貢献は、きちんと評価して良いのではないか。（小田切座長）

〇今回の提言はアジャイル型の提言だと考えている。短期間でＰＤＣＡサイクルを回し、試行錯誤を前提として、走りながら修正を行う計画づくりが現在の主流であり、今回のアイデア集のような提言素案は、時代をよく反映したものではないかと考える。（小田切座長）

〇今回の提言素案は、従来の研究会報告のように、各部局のこれからの業務の方向性を縛るものではなく、あくまで地域力創造グループにアイデアを提案するものになっているのではないかと理解している。（小田切座長）

全体総括

〇地域力創造グループは様々な外的要因に影響を受けることが多い組織であるが、原点や軸を忘れないようにしていきたい。その思いもあって、今回、客観的にこれまでの取組をご評価いただいており、先生方のご意見は、率直に今後に活かしていきたい。（地域力創造審議官）

〇小田切座長がおっしゃるようなアジャイル型という視点も活かして今後も進めていきたい。これからも継続してご指摘やご評価をいただければと思う。（地域力創造審議官）

以上